

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200393		
法人名	有限会社 介護社		
事業所名	グループホーム助一みのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市森山町5丁目23番3号		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200393-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日には外に出て季節を感じながら日光浴とリハビリを兼ねて庭を散歩するようにしています。生活の中でのリハビリを大切に、洗濯物を干したり、たたんだり、また食器拭きなどをして頂いています。季節の行事も大切に、春は花見や玄関先に鯉のぼり上げたり、秋の祭りや運動会、冬は干し柿作りをしています。全員が参加出来ることを目標とし、楽しく活気ある生活を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街の一角にある。道路を挟んだ向いには学校があり、中学生や高校生の姿を見られる環境にある。事業所の玄関前は広く、利用者同士が日光浴を兼ねてベンチで会話を楽しんでいる。また、畑で野菜を育てて皆で収穫し、食材としても活用し、干し柿作りやおやつ作りも職員と利用者が共に楽しみながら行っている。利用者の入浴後の支援として、保湿の為にオリーブ塗布は今も継続している。職員は、それぞれが自分の目標を決め、それを掲げて日々支援に取り組み、利用者が笑顔で生き生きと暮らせるよう常に寄り添っている。管理者は、職員の資格取得を奨励し、介護力の向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	助一の精神と理念として掲げている「いつでも、どこでも、だれにでも」を基本に毎月の生活の中で常に対応できる様に心掛けています。勉強会等でその確認、接遇についても振り返りを行っております。	事務所内に、理念である「いつでも、どこでも、だれにでも」を大きく掲示し、同じ援助、介助を笑顔で行うとしている。職員も、毎年、個々の介護目標を決めて掲げ、支援を振り返りながら勉強会でも理念を共有し、実践に繋がるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回事業所周辺の清掃活動を行っています。地元の中学生が年に2回プランターの寄せ植えを持って来訪してくれ、その際、利用者が楽しみにしている交流があります。また、毎月利用者全員にアレンジフラワーを届けてくれるボランティアの方もいます。	代表は自治会員でもあり、日頃からの近隣とのつきあいを継続している。職員も道路を含めた周辺の清掃を週1回、自主的にしている。感染予防対策の為、現在は地域との様々な交流を自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「家族が・・・」「自分が・・・」と考え興味、関心を持たれる方への説明や見学、突然の訪問にも対応できる様、話し合っております。現場研修の方の受け入れもしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月に開催しています。行政、地域包括、歯科医師、家族などが参加し現状報告、今後の取り組み等、意見交換をしています。他施設の事例や歯科医師による口腔ケア指導等で学び利用者支援に繋げています	運営推進会議は書面開催とし、活動状況の報告、ヒヤリハット、ワクチン接種及び感染対策等についてまとめた「運営推進会議実施報告書」を構成員に郵送し意見を求めている。行政へは、議事録を含めて書類提出等で直接届けている。管理者の交代があり、11月は紹介を兼ねて、会議形式で開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	美濃加茂市サービスネットワーク会議に参加し他の事業所と情報交換をし、良い部分は取り入れ積極的に活動しています。常日頃から行政と連絡を取るようし対応方法や情報、今後の対策等話し合っています。	新型コロナの最新情報や対応方法等について、相談をしながら、利用者の安全を守る支援につなげている。また、地域高齢者の現状や法改正等の情報を得ながら、運営推進会議への参加を依頼し、今後も協力体制の強化を図るとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束についての勉強会をおこない「もしかしてこれは拘束？」など、常に考えながら対応しています。またスタッフがストレスを溜めない方法についての取り組みや研修への参加も行っています。	毎月の職員会議の中で、身体拘束廃止委員会を開催している。利用者の状態や具体的な事例を挙げ、対応方法や経過報告を行いながら話し合っている。拘束の弊害や虐待防止についても学んでいる。利用者の状態によっては、内服薬、施錠の必要性についても、医師と相談しながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見えない所で起きているかもしれないという危機感を持ちお互い意識をする。気づいたら、その場で声を掛ける様にしています。「言葉」の使い方にも注意しあっております。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について外部研修を受けています。また、職場内の勉強会でも取り上げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い利用者のご家族に確認を取りながらご理解と納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は訪問時や秋祭りに開催する家族会で確認、意見交換をしています。隔月に送付するお便りには、ホームで行っている行事や利用者様が楽しんでおられる様子をコメントと写真を一緒に添付し送っています。	ホームの行事や利用者の様子が分かる写真を掲載し、担当職員のメッセージや利用者自身が書いたコメントも載せたホーム便りを家族に送付している。家族の訪問時には、意見や希望を聞き、メールなどでも連絡を取り合い、運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・介護支援専門員も現場に従事し職員の意見や提案を聞きやすいようにしています。代表も利用者の状況を把握しながら共に過ごす時間を多く持つよう努めています。またスタッフ会議や勉強会で意見交換をし反映させています。	日頃から、管理者と介護支援専門員も現場に従事しており、職員の意見や提案を聞きながら速やかに対応し、内容によっては組織で検討を行っている。職員の働きやすい環境づくりと共に、研修受講や資格取得を奨励し、勉強会等を行いながら、職員のモチベーション向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に個々の意見や思いなどを聞き、やりがいを持って働けるよう環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講し、その都度受講した職員が中心となり定期的実施している勉強会で研修内容を発表しています。職員間でも学びたい内容を抽出し、勉強会を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や会議を通して、他事業所との交流を図っている。必要に応じて専門職の意見も頂き質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない場所で不安もあると思いますのでこちらから優しく笑顔であいさつ、声かけをして安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方から話しを十分に聞き、安心と信頼を持って頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方から頂いた情報や担当ケアマネ等からの情報を基に必要支援の検討・確認をし、その人に合った介護計画・支援・援助を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の声に耳を傾け話を聞いたりレクリエーションを一緒に楽しみます。また食器拭きや洗濯物を干したりたたんだりして頂き共に支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信・電話で近況報告を行い往復ハガキにてホームの行事には家族の参加もお願いし、絆を深めています。来訪の少ない家族には電話を入れ訪問をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人、孫などの訪問があります。再訪の声掛けをしながら馴染みの関係の継続支援をしています。お墓参りや受診などで外出された際には食事されたり自宅に戻るなどされておられます。	昨年同様、今もコロナ禍にあるが、利用者を孤独にさせない取り組みとして、家族との窓越しの対面や、家族同行での病院受診などを支援している。利用者の個別の希望も、家族に協力を依頼している。理・美容師の訪問も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩・歩行リハビリ時は自立者が車イスの方を押して頂いたり、集団レクリエーション時は会話がはずむよう、また利用者同士の支え合いができるような雰囲気作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節行事や各種イベントに際し、随時ご家族にお知らせしお越し頂けるよう努めています。また利用者様が入院した後もお見舞いに出掛け情報を頂いたり、ご家族の相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別支援時には、表情や仕草、会話の中から思いや意向を把握できるよう努めています。職員全体でカンファレンスを通じ情報の共有をし希望が実現できるように取り組んでいます。	入居前のアセスメントを参考にしながら、テレビ番組等で、関心があることなどを訊ねたり、日常生活での会話、表情などから、利用者の思いを把握するよう努めている。入浴介助時のコミュニケーションも大切な時間と捉え、知り得た情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を頂く事はもとより、日々の生活の中で、これまでの生活や習慣になっている事、趣味等を伺っています。家族からも伺う事で生活背景の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活の流れを知りつつ毎日の健康状態に合わせてケアを行い、職員間の情報を共有し利用者様の体調管理に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり家族の意見を確認し利用者様の情報を共有し担当者がさらに医療面、生活面を理解、把握することで利用者本位の介護計画の実践に生かせるよう努めています。家族訪問時には、現状の説明と見直しについて理解を頂いています。	介護支援専門員が日常的に現場に入り、利用者の状態を把握している。介護計画作成時には、家族と意見交換を行い、関係者で話し合いながら介護計画を作成している。作成後は再度家族に説明し、利用者の状態に応じて、適切に見直しを行っている。	コロナ禍の今、様々な制限があり、会議開催が難しい状況である。収束後には、家族と日程を調整して介護計画作成会議を行い、利用者の状態を家族が理解した上で、互いに納得のいく計画作りが行われることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの介護計画に沿ったケアを実践し、職員間で共有をするため個別記録に詳細を記し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で生じたニーズに応じて主治医や歯科医師の往診また医療機関の受診、必要に応じて医療的支援・指導を受けています。また家族が通院できない状況時はスタッフが変まって通院の対応をしています。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきいきボランティアさんの訪問や月に2回音楽療法を行い、毎日体操とレクレーションを通して、共に楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に施設協力医療機関の説明をし家族に選択をして頂いています。毎月2回往診でその都度適切な治療を行って頂いています。歯科についても同じ様に往診して頂いています。医療情報は家族と共有し適切な医療を受けられる支援をしています。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明し、本人・家族が選択している。協力医は月2回の往診があり、歯科医の往診もある。専門医などの個別の受診は家族が同行し、受診結果等の情報を共有しながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に何か変化があれば、管理者介護支援専門員にすぐ伝え、受診するなどの対応をします。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が日頃より病院関係者と情報交換し利用者家族と治療方法を話し合いながら安心して治療できる関係作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期についての説明をし同意を得ている。状態の変化時には医師を含めて関係者で話し合いをし方針を確認、本人と家族が安心して過ごす事ができるよう支援をしています。	契約時に重度化や終末期の対応として、看取りを行わない事を口頭で説明し家族の同意を得ている。利用者の状態が変化した場合は、早い段階で関係者が話し合い、方針を確認している。本人・家族が安心して過ごせるよう、医療機関や移転先等の情報を提供している。	契約時に、重度化や終末期の対応について、事業所が出来ることを家族に口頭で説明し同意を得ている。利用者や家族には、指針等の文書提示の上で説明し同意を得られることが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所中の利用者様の既往症や内服薬の把握に努めています。また勉強会ではロールプレイングなどを用いながら急変時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は毎月1回職員で役割分担をし、独自の訓練に取り組んでいます。また、声だし通報などの手順、イメージトレーニングを行っている。運営推進会議でも行政と話し合い連携を図っています。更に、夜間を想定した訓練を3、4ヶ月に1回実施している。	毎月、事業所独自で防災訓練を実施している。初期消火や避難誘導、連絡網の確認、備蓄の点検を行い、訓練後には反省会を行っている。水害や地震対策についても運営推進会議で話し合い意見交換を行っている。近隣の協力体制については、新型コロナの収束後には、再度、呼びかけをしようとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんそれぞれの性格により、言葉を選びながら声かけし、尊厳を損ねないように時と場合を選んで対応。決して否定せず、利用者さんの思いを受け入れる。不穏気味な時は少し距離をとり見守りながら対応しています。	職員は、利用者の「ここが一番安心」の声が聴けるよう、常に人格を尊重した対応と適切な言葉かけを心がけている。トイレや浴室等は、カーテンやパーテーションを設置して支援し、誇りやプライバシーを損ねることなく、「待つ」姿勢で対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクなど拒否された場合でも無理強いないで対応、希望された事が出来ない場合は別の事をしてもらい気分を害さないようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望には出来る範囲で対応難しい時には時間をずらすなどして希望に答えられるよう努めます。利用者さんの得意分野を把握し1人1人利用者さんに合った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度出張理美容を利用しています。利用者様の要望を聞き、カット、丸刈り、カラー等を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でできた野菜と一緒に収穫し、職員に調理してもらい、利用者様と一緒に食事をしています。食後の茶碗拭き、膳拭き、エプロン干し等の片付けも一緒にしています。日曜日にはお好み焼きや焼きそば作りなどを楽しみます。	調理担当の職員配置があり、3食共手作りの食事を提供している。庭で採れた旬の野菜や家族からの差し入れなども利用している。利用者もできる範囲で手伝い、郷土料理作りは、職員が利用者から学んでいる。日曜日は、お好みや焼きそば、おやつ作りなど、利用者も参加し、職員と一緒に楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の少ない利用者様には代替えや補助食品を利用して栄養バランスを確保しています。水分摂取の少ない方には、声かけを中心にフレーバーを入れるなどその人に合わせた対応を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施しています自己にてやられる方には見守りと観察、必要に応じて仕上げ磨きをし口腔清潔に努めています。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けや誘導で出来る限りトイレでの排泄を促しています。	トイレでの排泄が習慣になるよう、声掛けとトイレ誘導で支援している。日中は、職員のごまめな支援により、ほとんどの利用者が、トイレでの排泄が来ている。また、利用者の状態に合わせて、布パンツやリハビリパンツ等を使い分けている。夜間は転倒防止の為、ポータブルトイレを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時・おやつ時の水分摂取には完飲して頂けるよう寄り添い声掛けをしています。食事バランス良く食べて頂けるよう声掛けしています。週1回歩行リハビリの時間を設けたり散歩で体を動かせるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時、スタッフ2名で楽しい会話をしながら笑顔で対応しています。利用者の方に着替えの準備をして頂く等自己尊重に配慮しています。入浴後にはオリーブオイルを使って保湿に努めています。	入浴は2名対応で介助し、週2回を基本に支援している。浴槽に浸かることが困難な重度の利用者は、シャワー浴や清拭で支援している。介助時には、コミュニケーションを図りながら、楽しく入浴できるよう努め、入浴後には、保湿の為にオリーブオイルでのケアを継続して行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は出来るだけフロアで皆さんと楽しく過ごし、夜間安心して眠れるように支援しています。あと、体調等により日中の休息も取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は、日付・氏名・朝・昼・夕と声を出して確認をし誤薬がないよう努めています。また内服薬の変更時や臨時の処方時には申し送りをしっかりとし理解と把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味を大切に楽しく過ごせるように寄り添っています。パズル、数合わせも時間をかけ自力でやって頂きます。外気浴も楽しみ季節ごとの行事や歌を楽しんだりボランティアの協力も頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中で花見や喫茶店への外出を行っています。また受診時等にはご家族と共に外食を楽しまれる事もあります	今もコロナ禍にある為、ほとんどの外出は控えているが、天気の良い日には、広い庭をリハビリを兼ねて散歩したり、玄関先のベンチで日光浴をしながら、お茶やおやつを楽しんでいる。個々の希望は家族に協力を依頼しており、受診の帰りに外食や買い物に行く利用者もある。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物が必要な利用者様は買い物のお手伝いをしています。ほとんど、家族が用意して下さいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望があれば自由に掛けて頂いています。手紙も本人の希望があれば書いて頂けるよう見守り支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはベンチが置いてあり、その場で季節の花や畑の作物など眺めて楽しまれています。ユニット間も自由に行き来ができ別ユニットの利用者の方との交流も楽しまれています。食堂のテーブルも位置なども工夫しています。	玄関先や玄関内側にも椅子やソファがあり、野菜畑やプランターの花を眺めることができる。利用者は、ユニット間を自由に行き来することができ、利用者間で交流を楽しんでいる。ほとんどの利用者が、昼間はホールの好きな場所でゆっくり過ごすことも多い。利用者が作成した様々な季節の作品が部屋いっぱいに掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やロビーも自由に行き来でき移動の制限なく自由に過ごして頂けます。自己にて移動できない利用者様もスタッフと一緒に2つのユニットを散歩します。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその人らしさがあり、家族の方の思い出の写真を飾られたり、使い慣れた家具や椅子が置いてあったり、ご主人の位牌を置かれ毎日お参りされる方もいます。日当たりも良く冬でも暖かく過ごせます。	居室の入口には、利用者自身が分かりやすいよう、写真入りの表札や大きな文字で書かれた名前が掛けてある。ベッドやチェストが備え付けられ、利用者の使い慣れた家具や日用品を置き、思い出の写真や家族からの贈り物を掲示するなど、落ち着いて暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には、その人の写真やネームプレートをかけたりして自分の部屋が分かりやすい工夫をしています。歩行器や杖は、使い慣れたものを使用させて頂いています。		